



## 兵庫県立大学看護学部30周年を迎えて

けやき会 会長 ウイリアムソン 彰子

現職：神戸大学医学部附属病院  
教育担当副看護部長

兵庫県明石市で生まれ育ち看護師になることを夢見ていた私は、地元に来た新しい看護大学に通わせていただき、大学院修士課程、博士課程まで兵庫県立大学の先生方にご指導をいただきました。現在も兵庫県内で看護師として、臨床看護師の働く環境を整えるための役割を与えていただき、看護の仕事を続けてきていることに改めて感謝申し上げます。

平成5年の開学と共に入学をした私達1期生は、何をすることも大学として初めてのイベントでした。先生方はいつも学生を中心に据えて、学生の為にと尽力して私達を育ててくださったのだということを、卒業をして、社会に出て、現職である卒業後新人教育に関わる仕事をするようになって骨身に染みて感じるようになりました。それは、私達が受けてきた教

育が、いかに上質なオーダーメイドの教育だったのかということ。それが当たり前のことではないと気づいた時から、私が受けてきた恩恵を第一線で働く少しでも多くの看護師に還元したいという思いで勤めております。

この度30周年を迎えるにあたり、同窓会から卒業生にメッセージ動画の提出を依頼させていただきました。国内は北の北海道から南は沖縄県まで、海外からもメッセージ動画が届きました。同窓生が世界各国でそれぞれの夢を実現させるために活動している様子に大変勇気づけられました。看護に国境は無く、卒業生の活動の場は広がっていますが、CNASマインドはいつも繋がっているように感じます。

卒業生を代表しまして、兵庫県立大学看護学部および地域ケア開発研究所の益々の発展を祈念しております。

## 兵庫県立大学看護学部創基30周年・ 兵庫県立地域ケア開発研究所創立20周年記念事業について

令和5年度、兵庫県立大学看護学部は前身の兵庫県立看護大学開学から30周年、兵庫県立地域ケア開発研究所は創立20周年を迎え、合同の記念事業を開催いたします。

テーマ：歴史を胸に1歩前へ - CNAS30ケア研20 -  
日時：2023年12月23日(土)13時～16時30分 \*12時30分開場  
場所：兵庫県立大学明石看護キャンパス 講堂  
開催形式：対面方式

(記念式典・記念講演の様子は、後日、看護学部ホームページ内特設サイトで動画として御覧いただけます。)

### プログラム

1. 記念式典(13時～14時)  
開会の挨拶など：兵庫県立大学 工藤美子 看護学部長  
兵庫県立地域ケア開発研究所 増野園恵 研究所長
2. 記念講演(14時～15時30分)  
・南 裕子氏：兵庫県立看護大学初代学長、聖路加国際大学・兵庫県立大学・高知県立大学・神戸市看護大学 名誉教授  
・茅野龍馬氏：WHO神戸センター・医官  
・山本裕子氏：シェア＝国際保健協力市民の会(SHARE)  
(兵庫県立看護大学1999年卒業/看護学研究科博士前期課程2009年修了)
3. 卒業生・修了生・教職員交流会(15時30分～16時30分)

### <参加申込>

けやき会会員の皆様には、式典参加申込用のWEB入力フォームとQRコードを提示したフライヤーを同封しておりますので、そこからお申込み下さい。

多くの皆様と母校でお会いできますことを、心よりお待ちしております。

周年記念事業 実行委員代表 高見美保(兵庫県立大学看護学部)

## 兵庫県立大学看護学部30周年、地域ケア開発研究所20周年を記念して CNASスピリットの発祥に思いを派して

兵庫県立大学名誉教授 南 裕子  
(兵庫県立看護大学学長、地域ケア開発研究所初代所長)



1993年4月、農業研究所跡地に安藤忠雄氏の設計による兵庫県立看護大学（以後、大学）が誕生してから30年。そして重要文化財が埋没しているかもと調査のために建設が遅れた地域ケア開発研究所（以後、研究所）が設立されて20年。時代の課題に翻弄されたことも多々あるなかで発展をしてきたことを心から関係者と共に慶び合いたいと思います。

この歩みには卒業生と修了生の皆様の学生時代から今に至るまでのご貢献があつてのことだと私は思います。大学は新設でしたから、1期生から初期の学部生は大学づくりの立役者でした。初代学長として就任した頃に私は「この大学づくりは看護学の一つの学派を確立するとともに、文化づくりでもある」と言ったことがあります。ひとつの学派を作っていくのは教職員それぞれの役割はもとより大きいですが、先輩のいない、または少ない大学のなかで学び、楽しみ、探求する学生たちが果たしてくれた役割はとても大きいと思います。このころの卒業生たちと話をすると、逸話のなかからCNASスピリットと言えるようなものが育つように思えるのです。それぞれの学生の自由が当たり前存在し、それぞれが自分の可能性を探求することを重んじることが教育のなかに浸透していたというこ

とでしょうか。過密なカリキュラム下にありながら、それができたということは何だろうかと考えるとき、私には悔悟の記憶があります。

ご存じのように開学して2年目が終わろうとしていた1月17日に阪神淡路大震災が発災しました。激震地に住んで家屋崩壊などの被災した教職員や学生たちが大勢いました。教職員は支援活動を始めたので、学生たちも「今は授業よりもボランティア活動をしたい」と主張しましたが、教授会は授業再開を決めました。後に非常勤講師の故中井久夫先生に授業再開は早すぎたと著書のなかで指摘されました。

ところが、学生は自ら病院を尋ねてボランティアを申し出たり、教職員を動かしてボランティアができる場を探したりして、支援にできるようになりました。関西における学生ボランティアの組織化に積極的にかかわった学生もいました。後にボランティア元年といわれるような原点でしたが大人の私はそれをあまり応援できていなかった悔悟があります。いまもコロナ禍のなかで教員が学生をコロナ医療・保健・福祉の現場から遠ざけているのに、学生はボランティア経験を通して自ら拡げているように思います。

また、この大震災の経験から学んだことから研究所が生まれました。国際看護学、災害看護学やまちの保健室の研究などは、経験を重んじ、それを知として発展させる実践型の研究所であり、明石キャンパスから発信する看護学の学派がCNASにあると信じ、期待しています。けやき会の皆様のご健勝を心から祈念しています。

### 30周年を迎えて：実践の拠点となるように

兵庫県立大学 副学長 坂下 玲子



兵庫県立看護大学からの記念誌が、明石看護学術情報館のホームページに 紀要/記念誌として掲載されている (<https://lib.laic.u-hyogo.ac.jp/laic/5/kiyo.html>)。綴られた人々の思いと歴史が、本学部の大きな財産であるので、是非ご一読いただきたい。特に5周年誌は、「我が国の看護学の教育・研究・実践の拠点として」という当時の兵庫県知事 故貝原俊民氏のご挨拶にはじまり、第2章に開学までの経緯

が描かれている。この章を読むたびに、「看護大学がほしい！」と昭和38年より19回もの陳情・歎願を繰り返してくださった故仙賀ますみ氏や兵庫県看護協会など多くの皆様の熱意と活動に胸が熱くなる。看護系大学は、急増し300校を超えた（2022年）。大卒の看護師が増えると患者の死亡率が減少することも立証されている(Aikin, et al., 2003; 2014)。

一方で、日本においては、看護師の社会的地位や待遇はまだまだ課題が多い。30周年を迎え、将来を見据えると、大学は実践の拠点としても、臨床と連携しながら新しい看護のかたちを示していくべきだと考える。

疾病構造は生活習慣、そして人間関係に起因するものへと移り、21世紀は今までにケアが必要とされている。人々のニーズを

どのように持続可能なシステムへとつなげていくかが課題だと私は考えている。本学部・研究科の強みは何かと考えると、その一つは実践に基づく知の構築であり、修士・博士課程で脈々と取り組まれてきた「実践モデル」の構築であろう。それを示したくて、雑誌「看護研究」(医学書院)において連載を開始した (<https://www.igakushoin.co.jp/journal/681>)。また、2019年より学部特色化予算を得て、データヘルスに取り組んできたが、本年度よりデジタルヘルスセンター(センター長 川崎優子先生)が開設される。先端医療工学研究所や大学全体での共同研究も進んでいる。手わざと最新のテクノロジーが融和することで、看護師が人間でしかできない仕事に専念できるようなモデルを提示することを夢見ている。



### 兵庫県立大学看護学部30周年・地域ケア開発研究所20周年記念メッセージ

兵庫県立大学 看護学部長 工藤 美子



兵庫県立看護大学・兵庫県立大学同窓会 けやき会の皆様、本学で培われた力を用いて、ご活躍のことと拝察いたしております。今年、兵庫県立看護大学が1993年に開学して30周年を迎え、「歴史を胸に1歩前へ」をテーマに周年事業を進めていますが、けやき会会員の学部卒業生、大学院修了生である皆様方の同窓生が、何人おられるかご存じでしょうか。看護学部の卒業生は、県立看護大学で1,194名、兵庫県立大学で1,686名となっており、あわせて2,880名、大学院看護学研究科博士前期課程においては、県立看護大学で156名、兵庫県立大学で294名、あわせて450名、博士後期課程では、県立看護大学で10名、兵庫県立大学で50名、あわせて60名の修了生がおられます。兵庫県立看護大学は、社会的要請を背景に、看護のさまざまな分野で活躍できる資質の高い看護職を育成するとともに、看護学の教育・研究・実践を通して、人々が安心して健康な生活を送ることができる文化の形成と学問の発展に寄与することを目的として設立され、現在の看護学部においてもこの趣旨を踏まえた教育理念・教育研究上の目的を掲げています。昨年度、看護学部は日本看護学教育評価機構から「適合」の評価を受け、看護学部の教育理念にある「職業創造ができる看護職の育成」について、個々の学生が看護学の

学びを通して職業としての看護を位置づけ、既存の看護職の職域にとらわれることなく職業を創り出すことができる人材を育てることを目指しており、実際に看護職のバックグラウンドを活かした他分野での起業等、卒業生が様々な分野で広く活躍していることは高く評価できるとされました。卒業生・修了生の皆様の活躍が学部や大学院の教育の成果となっています。12月23日(土)、記念式典を明石看護キャンパスにて開催いたします。是非、この機会に母校の「今」を見にいらしてください。





地域ケア開発研究所は、2004年12月に開設され、今年20年目の節目を迎えます。阪神・淡路大震災時とその後兵庫県立看護大学が取り組んだ災害看護の実践・研究活動を基盤に、災害看護学の構築と発展に向けて、さらには地域の人々が健康で安心・安全に暮らすことができる社会に看護としていかに貢献できるかを看護学部・看護学研究科と共に探究して参りました。2007年6月にはそれまでの災害看護の取り組みが評価され、世界保健機関（WHO）より「災害と健康危機管理に関する看護協力センター」として認定されました。2016年からは災害健康危機管理WHO協力センターに名称が変わり、災害や感染症パンデミック等の健康危機の状況に対応する保健医療システムの強化、保健医療人材の育成・能力開発に関する研究活動に取り組んでいます。

## 兵庫県立大学看護学部30周年、 地域ケア開発研究所20周年を記念して



兵庫県立大学看護学部30周年、地域ケア開発研究所20周年、おめでとうございます。大学院での学びと今後の看護キャリアについて、皆様にご紹介したいと思います。兵庫県立病院で看護師長をしていたころ、県立看護大学の準備室が設置され、南先生の講演を聴き感動し、「この先生から看護の本質を学び直したい」と強く思いました。そして、40歳を前に、今までの自分のキャリアを振り返り、子育てと仕事に必死だった20歳代、30歳代はやんちゃ盛り思春期の子育てに翻弄しつつ、看護師長として部下育成に悩み、40歳以降の人生後半の看護師キャリアをどうするのかと考えた末、大学院への進学を決めました。「40歳になって今までのキャリアを捨て、大学院に行っても何のメリットがあるの？」と家族や親戚にも言われながらも「学びに年齢は関係ない、学

びたい時が学びの旬」と周囲を説得し入学しました。大学院では、それぞれの領域の一流の教授陣から多くのことを学び、目からうろこの充実した2年間でした。大学院で何を学んだのかと問われると「目の前の事象や疑問を深く探求し、学び方を学び、学ぶ喜びを知った」です。卒業後、臨床に戻りましたが、大学院で学んだ最新の知識は5年程度で陳腐化しました。しかし、学ぶ喜びを知った私は、実践を通して常に新たな学びを得ることができました。時に苦しいこともありましたが、チームで仲間と共に学ぶ楽しさも知りました。

5か所の県立病院で看護部次長・看護部長・副院長、そして、60歳から5年間は兵庫県看護協会長の任を経験する中で、常に新たな挑戦を楽しみながら周囲の人の支援を得ながら役割を担えたのは、大学院での学びがあったからだと確信しています。また大学院の同期は、困ったときにはいつでも相談に乗ってくれ、アドバイスをくれる一生の宝物です。今後も「学びたい時が学びの旬」を胸に歩んでいきたいと思っています。

兵庫県立大学 看護学部 修士課程 2期生  
株式会社ハイメディック シニアライフ事業企画部  
看護・機能訓練サービス担当 顧問 成田 康子

びたい時が学びの旬」と周囲を説得し入学しました。大学院では、それぞれの領域の一流の教授陣から多くのことを学び、目からうろこの充実した2年間でした。大学院で何を学んだのかと問われると「目の前の事象や疑問を深く探求し、学び方を学び、学ぶ喜びを知った」です。卒業後、臨床に戻りましたが、大学院で学んだ最新の知識は5年程度で陳腐化しました。しかし、学ぶ喜びを知った私は、実践を通して常に新たな学びを得ることができました。時に苦しいこともありましたが、チームで仲間と共に学ぶ楽しさも知りました。

5か所の県立病院で看護部次長・看護部長・副院長、そして、60歳から5年間は兵庫県看護協会長の任を経験する中で、常に新たな挑戦を楽しみながら周囲の人の支援を得ながら役割を担えたのは、大学院での学びがあったからだと確信しています。また大学院の同期は、困ったときにはいつでも相談に乗ってくれ、アドバイスをくれる一生の宝物です。今後も「学びたい時が学びの旬」を胸に歩んでいきたいと思っています。

兵庫県立はりま姫路総合医療センター看護部 竹原 歩



1995年1月17日の早朝、阪神・淡路大震災が発生しました。当時、私は兵庫県立看護大学の学生でした。その前日、私は風邪をひいてしまい、アルバイトを早引きしてアパートで一人休んでいました。高熱でうなされうつつらうつつとした意識のなかで、窓の外がピカッと光ったのを「何かな?」と思った瞬間、これまでに経験したことのない大きな揺れに襲われました。長く感じた揺れのあと部屋のまわりを見わたすと、倒れた家具や土壁のにおいが漂っていました。寝間着姿のまま外に出てみると、同じアパートの住人の方々も出てきていて、たいへんなことが起こったこと、お互いの無事を確認していました。そうこうしていると悪寒がぶり返してきたので、安心・安全な場所を求めて大学に向かいました。

アパートと大学は歩いて10分ほどの距離でした。私が到着したとき

入り口のシャッターは閉まっていましたが、教員の先生がお一人到着されていました。お互いの無事を確認しあっていたところ、当直の警備員の方がシャッターを開けてくれました。私の体調がよくないことを気づいて、当直室のベッドで休むよう指示してくれました。当直室のベッドで寝ていると、先生方からつぎつぎに励ましのお声かけと温かい食べ物をいただきました。その日の夕方には私の体調は回復しましたが、大学のテレビで阪神・淡路地域に起こったことを目の当たりにして、大きな衝撃を受けました。私は母校から安心・安全な場所と温かい食事、温かい寝床を提供してもらったのですが、そういう状況にないあまりにも多くの被災者がおられることを知りました。

2023年9月、職場の横にあるアクリエひめじで、大会長大野かおり先生のもと日本災害看護学会が開催されました。震災を経験した母校が主幹となって開催されたことは、非常に意義深いと思いました。母校と震災の記憶は切っても切り離せないものであり、私の看護師人生の基盤となるものの一つであると思っています。

国立国際医療研究センター  
国際医療協力局 池本 めぐみ



この度は、兵庫県立大学看護学部30周年、地域ケア開発研究所20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私が兵庫県立大学大学院看護学研究科に在学したのは2015年から2020年で、国公私立5大学で構成された5年一貫博士課程の災害看護グローバルリーダー養成プログラム(DNGL)です。大学院に入学する前は、ICU・救急病棟、透析室、小児外来、産婦人科病棟等での臨床を経験しました。常に「対象者によりよい看護・助産サービスを提供したい」「よりよい人生を過ごしてほしい」と考えました。

価値観は十人十色だと思うようになりました。この生きていることすべてに関わる看護は、科学とアートの両方を備えているものだと考えるようになりました。ここでお気づきだと思いますが、兵庫県立大学看護学部の英語名がCollege of Nursing Art and Science, University of Hyogoなのです。看護をこのように広く捉える兵庫県立大学で学ぶことができ本当に良かったと思いました。

現在は、国立国際医療研究センター国際医療協力局に所属し、JICAの医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクトの専門家としてモンゴルウランバートルに赴任しています。大学院で学んだ「自分の信念を持って誠実に、丁寧な仕事をする」「問題の本質を見極める」「臆せず色々なことに挑戦する」を胸に毎日を大切に過ごしています。仕事でもプライベートでも色々なことがあり、嬉しく喜び日があれば、悲しくてどうしようもない日もあります。それでも、私は看護職であることを心から幸せだと感じています。ここまで導いてくださった先生方、ともに学んだ同志、大学に関係するすべての皆様に感謝いたします。

## 総会・講演会

2023年5月14日(日)に、けやき会主催 講演会『デジタル技術が医療・看護現場をどう変えるか～メタバースに集おう～』と、『第26回けやき会総会』を開催いたしました。今年度の講演会では、看護学部の前身である兵庫県立看護大学の1期生で現在は神戸大学医学部附属病院看護部教育担当副看護部長として活躍されている、けやき会会長のウイリアムソン彰子氏をお招きし、新型コロナウイルスの影響を受け、臨地実習の中止や縮小が余儀なくされている中、看護の教育現場でIT、AR、VRをいち早く導入して活用されていたウイリアムソン氏から、医療や教育の現場でICTをどのように活用できるかについて講演いただきました。講演内容の詳細については、

兵庫県立大学通信WEB版([https://u-hyogo-webmag.com/archives/article/20230514\\_keyakikai](https://u-hyogo-webmag.com/archives/article/20230514_keyakikai))に掲載されていますので、ぜひアクセスしてください。また、講演会の中で歴代のけやき会会長とのメタバース空間での座談会の模様も紹介され、懐かしいお話を伺うこともでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました！今後も、在校生とけやき会会員、そして教員を繋ぐ場となるよう、けやき会総会・講演会を開催していきたいと思っています。来年の講演会に向けて、ご要望など皆さまのお声をぜひお聞かせください。今後とも、けやき会をよろしくお願いいたします。

## 樺まつり



今年は「ka・n・go-！」というテーマを設定し、樺まつりを開催しました。このテーマは、昨年開催されたサッカーのFIFA ワールドカップカタール2022の際に、日本中で流行した長友佑都選手の『ブラボー！』という言葉が由来となっています。

徐々に新型コロナウイルス感染症対策が緩和されつつあるとはいえ、コロナ前の以前の生活に完全に戻すにはまだまだ制限があり、時間がかかるのが現状です。制限が残る生活の中でも、皆が前向きになり、前に進めるようになるためには、長友選手の「ブラボー！」が必要であると考えて、また、看護学部が主催しているということを考慮して、このテーマを設定しました。

徐々に本来の樺まつりに戻していこうという学生の意向のもと、今年は一般の企業様にも声をかけ、出店して頂くことになりました。企業様に出演していただくことは実に4年ぶり、経験のある先輩がおらず、無事に開催できるのかという不安な気持ちの中、自分たちにできる

ことを考え、着々と準備を進めていきました。当日を迎え、キャンパス内が沢山のお客様で溢れている様子やクイズラリーの景品のお菓子を貰いに来る子どもたちの笑顔を見たり、カラオケ大会が盛り上がっている声が本部まで響いてきたりするのを受けて、開催して本当に良かったと思ひ、やりがいを感じました。また、今回、樺まつりを開催することで、地域の方々に、健康のことや自分たちが住んでいる地域のこと、障がいのこと等を知って頂く良い機会になっていると感じ、樺まつり開催の意義を理解することができました。新型コロナウイルス感染症の影響で、一度途絶えてしまった「樺まつり」ですが、来年以降も開催させることを願っています。

最後になりますが、学生会メンバーや後援会、先生方をはじめとしてご協力くださった皆様、「けやき会」総会等で当日樺まつりに参加して下さった皆様には感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。



# お知らせ

## 明石看護学術情報館からのお知らせ

明石看護学術情報館では、卒業生・修了生の学習・研究活動支援のため、下記のサービスを提供していますので、ご利用ください。

(1) 医中誌Webの検索サービス（窓口で申請）、(2) 医中誌Web、PubMed検索時に入手可能と表示されたMedical Online、ProQuest、CINAHL、MEDLINEの文献限定で、複写サービス（窓口で申請、受取り）、(3) 来校できない遠方の卒業生・修了生に対して、入手可能と表示されたMedical Online、ProQuest、CINAHL、MEDLINEの文献限定で複写サービス（電子メールで申請、郵便で返送。1文献あたり上限15枚、一人年間10回を目安）、(4) Medical Onlineのアブストラクト（1件110円）が無料で検索可能となるID/PWを提供、(5) 学術情報館ホームページからUH Discovery文献検索サービス

お問い合わせは、laic-akashi@lib.laic.u-hyogo.ac.jp までご連絡ください。なお、これらのサービスは、卒業生・修了生以外の方は利用できません。

## 成人看護領域からのお知らせ

### 成人看護事例検討会

成人看護学では、慢性の病いとともに生きることを支援する看護について検討するための会を開催しております。本学修了生の慢性疾患看護専門看護師から講義をしていただくとともに、事例を通して意見交換を行い、看護を検討しています。実践で悩んでいることを参加者と検討することもできますので、是非ご参加ください。

今年度もWebにて開催しております。遠方からでも参加できますので、一緒に働いておられる病院や施設の方々にもお声かけいただき、ご参加をお待ちしています。

今年度の残りの開催予定は下記です。

テーマ：慢性腎臓病に関する看護  
日程：第3回 2023年12月16日（土）  
時間：13：00～15：00  
開催方法：Zoom

参加費：無料

申込み方法：成人看護学のホームページ（QRコード）よりお申し込みになれます。

ホームページ：https://dousoukai.site/u-hyogo-seijin/meeting/

連絡担当：成人看護学 森 菊子

Eメール：kikuko\_mori@cnas.u-hyogo.ac.jp

T E L：078-925-9447



## 老人看護領域からのお知らせ

### 兵庫・老人看護研究会（本学と遠隔会議システムのハイブリッド形式にて開催予定）

【2023年度の開催予定】

8月5日（土）14時～16時：終了

11月11日（土）14時～16時

2024年3月2日（土）14時～16時

\*原則、本学大学院の修了生を対象としています。

希望があれば、高見（miho\_takami@cnas.u-hyogo.ac.jp）まで問い合わせてください。

### 認知症看護事例検討会（本学と遠隔会議システムのハイブリッド形式にて開催予定）

【2023年度の開催予定】

8月19日（土）10時～15時：終了

2024年3月：開催日時は未定

\*兵庫県看護協会の認知症看護認定看護師コース修了生が主体となって運営しています。臨床の方々のご参加も歓迎しています。希望があれば、中筋（yoshiko\_nakasuji@cnas.u-hyogo.ac.jp）まで問い合わせてください。

## 精神看護領域からのお知らせ

### 精神看護勉強会

精神看護の実践家の方々とともに、実践の奥深さを学びあう事例検討会です。

2023年度開催予定（第115回、第116回は終了しました）

第117回勉強会 2024年2月17日（土） 13:30～16:00

対 象：看護師（精神医療、精神看護に携わる他の医療従事者も含む）

方 法：オンライン（Zoom）

### 精神看護CNSの集い

精神看護専門看護師の事例検討会です。グループ・スーパービジョンの有意義な機会となっています。

2023年度開催予定（第38回、第39回は終了しました）

第40回勉強会 2024年2月17日（土） 10:00～12:00

対 象：精神看護専門看護師教育課程を修了された方

方 法：オンライン（Zoom）

#### お申し込み方法

メールにてお名前・ご所属・連絡先を明記のうえ、お申し込みください。

なお、勉強会中に知り得た個人情報の守秘義務が生じますことを、ご承諾ください。

#### お申し込み・お問い合わせ先

兵庫県立大学 看護学部 精神看護学教室

〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13番71号

W e b : <http://www.pmhn-cnas.jp>

TEL / FAX : 078-925-9431

E mail : [pmhn.cnas@gmail.com](mailto:pmhn.cnas@gmail.com)

担 当：林田（精神看護勉強会）、菊池（精神看護CNSの集い）

## 母性看護領域からのお知らせ

### 母性看護事例検討会

母性看護学領域では、母性看護の臨床で直面する事例に焦点を当て、その事例に関する問題や課題に対する具体的な解決を考えること、参加者自身の気づきや理解を深めることを目的に事例検討会を行っています。2021年度より、オンライン（Zoom）で実施をしております。

卒業生・修了生の皆様はどなたでも参加可能です。事例を提供したい方や、参加したい方は、ぜひ下記までご連絡下さい。

2023年度の開催につきましては、日程が決定次第、母性看護HPにてご案内いたします。

連絡先：母性看護事例検討会事務局（沼田）

【電 話】078-925-9441

【メール】[fukumi\\_numata@cnas.u-hyogo.ac.jp](mailto:fukumi_numata@cnas.u-hyogo.ac.jp)

## 兵庫県立大学 臨床看護研究支援センターからのお知らせ

臨床看護研究支援センターでは、臨床現場（医療・福祉施設、地域を含む）と大学が連携し、看護ケアの質的向上を図ることを目的として、兵庫県立大学看護学部の教員が、看護研究、看護教育、コンサルテーション、教員の専門知識を活用したセミナーなど多彩な支援を行っています。皆さんの臨床実践能力向上の機会や、問題解決の相談相手として積極的にご活用ください。セミナーの詳細な内容や申し込み手続き、相談は、臨床看護研究支援センターのホームページ（<http://kango-kenkyu.org/>）からアクセスすることが可能です。

### 今後のイベント開催予定

- ・あなたの修士論文、眠らせないで論文投稿へ

日 時：2023年12月2日（土）

場 所：明石看護キャンパス

講 師：谷田 恵子（兵庫県立大学看護学部 准教授）

古川 恵美（兵庫県立大学看護学部 教授）

皆さまの参加をお待ちしております。

## 会報発行協力金協賛者一覧 (2023年9月30日現在)

### ■令和5年

#### 名誉会員

鵜飼 和 浩  
片田 範 子  
山本 あい子

#### 特別会員

鵜山 治  
竹崎 久美子  
松田 裕子  
丸 光 恵

#### 平10

鈴木(東) 和代  
得平(新川) 佐織

#### 平11

大森(田中) 美和

#### 平12

住岡(西村) まどか

#### 平16

野長瀬(谷口) 真由美  
青木(中地) 陽子

#### 平17

大谷(山田) 智恵

#### 平18

宮城 十 子

#### 平19

山村(福本) 愛

#### 平26

伊藤 麻里子

#### 平11博前

岩切 真砂子  
三輪崎 富士代  
佐久川 政 吉

#### 平15博前

奥野 信 行

#### 平16博前

長坂(玉石) 桂子

#### 平17博前

白石 佳 子

#### 平18博前

児玉(瀧上) 菜桜

#### 平27博前

吉田 かおり

#### 令4博前

藤後 朝 美

#### 平14博後

渡辺 かづみ

#### 平15博後

寒河江(野澤) 美江子

#### 平17博後

呉 小 玉  
近藤(佐藤) 麻理

#### 平21博後

工藤 美 子

皆様ご協力ありがとうございます。会報の一部に使わせていただきます。

## メールアドレス登録のお願い



2024年より、会報や総会などのご案内を郵送からメール配信に切り替える予定にしております。2022年3月以前に卒業・修了し登録された方および変更のある方は、けやき会のホームページから【会員情報の修正】にアクセスしていただき、メールアドレスの登録・修正をお願いいたします。

けやき会ホームページ【会員情報の修正】  
<https://keyaki-kai.com/member-address-fix/>



今年の4月に学部卒業以来20数年ぶりに同級生に再会しました。新生の保護者として来学した彼女と、教員としてお迎えした私と。大学に入るくらいの娘がいてもおかしくないという事実に「歳取ったな～私」と一抹の切なさを感じつつ、母娘2代が学ぶ母校の今に携われていることがとても嬉しかったです。30周年を迎える母校と共に、これからも前を向いて自分のペースで歩いていきたいと感じる今日この頃です。

# 兵庫県立大学同窓会 けやき会 2022年度決算書・2023年度予算案

**【決算書】収入の部** (2022.4.1 ~ 2023.3.31) 2023年 3月31日

費目	2022年度決算額	備考
会費 2022年度 学部入	¥1,060,000	106名×¥10,000
2022年度 大学院入	¥70,000	7名×¥10,000
学部卒業生	¥20,000	2名×¥10,000
大学院卒業生	¥20,000	2名×¥10,000
特別会員	¥20,000	2名×¥10,000
雑収入	¥92	利子(¥24+¥29+¥29+¥6+¥4+¥92)
学生会ウェルカムキャンパス	¥31,066	
会報協力金還元金	¥0	
前年度繰越金	¥7,456,847	
<b>収入合計</b>	<b>¥8,678,005</b>	

**【決算書】支出の部** (2022.4.1 ~ 2023.3.31)

費目	2022年度決算額	備考
<b>I ホームページ</b>		
web総会用HPコンテンツ作成費用	¥44,000	
年間管理費	¥55,000	
<b>II 樺まつり 総会</b>		
案内印刷・郵便利用料	¥260,737	
講師謝金	¥31,066	
<b>III 会報</b>		
会報印刷発送	¥200,000	
<b>IV 事務</b>		
Zoom契約料	¥22,110	
<b>V 寄付金</b>		
兵庫県立大学法人 (学術情報館)	¥250,000	
臨床看護研究支援センター	¥49,500	
<b>VI 役員交通費</b>	¥3,560	
<b>VII その他</b>		
名簿作成負担金	¥1,030,000	
振込手数料	¥935	
<b>支出合計</b>	<b>¥1,946,908</b>	

**【予算案】収入の部** (2023.4.1 ~ 2024.3.31) 2023年 3月31日

費目	2023年度予算案	人数	会費
会費 2023年度 学部入学	¥1,060,000	106	¥10,000
修士入学	¥30,000	3	¥10,000
博士入学	¥0	0	¥10,000
前年度繰越金	¥6,731,097		
<b>収入総計</b>	<b>¥7,821,097</b>		

**【予算案】支出の部** (2023.4.1 ~ 2024.3.31)

費目	2023年度予算案	備考
<b>I ホームページ</b>		
年間管理費	¥55,000	
Web総会システム費	¥20,000	
<b>II 樺まつり 総会</b>		
セミナー講師代金	¥30,000	
消耗品	¥10,000	
案内印刷・郵便利用料	¥280,000	
<b>III 会報</b>		
会報印刷発送	¥220,000	
<b>IV 事務</b>		
PC並びに周辺機器	¥30,000	
遠隔会議システム	¥23,000	Zoom契約料
<b>V 寄付金</b>	¥300,000	会員・準会員に対する還元事業に限る
<b>VI 役員交通費</b>	¥10,000	
<b>VII 予備費</b>	¥100,000	
<b>VIII CNAS30周年記念事業費</b>	¥400,000	
<b>支出総計</b>	<b>¥1,478,000</b>	

<b>収支差額</b>	<b>¥6,343,097</b>
-------------	-------------------

2022年度決算残高	収入総計	¥8,678,005
	支出総計	¥1,946,908
	差引残高総計	¥6,731,097

2022年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

監査 木村 らくい  
栗村 健司

